

## 豊栄地区タウンミーティング概要

- 1 日 時 平成22年7月21日（水）19時～20時30分
- 2 場 所 豊栄小学校 体育館
- 3 参加者 27人
- 4 市職員 太田市長、鈴木副市長、江波戸教育長、秘書課長、企画課長、総務課長、  
財政課長、税務課長
- 5 概 要
  - (1) 開会
  - (2) 区長会長あいさつ
  - (3) 市政報告（太田市長）
  - (4) 質問（要点のみ掲載）

### ① （仮称）合併記念公園関係

配布資料に（仮称）合併記念公園事業についての記載があるが、どのようなものか。また、既に事業は始まっているのか。

#### （市長回答）

まだ計画の段階です。議会からは「とにかくお金のかかる公園ではだめだ」と言われています。合併特例債を利用する関係であと5年以内にやらないといけないという状況もあるので、お金のかからない公園ということをまず頭に入れて計画しています。

市役所北側にある3haの市有地を活用して整備する予定であり、市役所の周辺駐車場が手一杯になっているということも含めて、200～300台の駐車スペースを取るなど、多目的広場のような公園にしたい。大きな施設、建物というのは全く考えていません。

### ② 総合計画関係

総合計画について。どこの都市も必ず活性化をうたっている。本市も「活力あるまち匝瑳市」と標題にある。問題はどうすれば活力が出るか。私は人口増を図らなければならないと思う。人口増になれば税収も増え、消費の創設から市街地も活性化することができる。人口増を図るにはどうすればよいか。一つには工場誘致が必要だと思う。もう一つには、住環境の整備をやったらどうかと思う。他市町村、全国から移住者を図る。私の住んでいる住宅地も、北は北海道から南は沖縄までの出身者がいる。勤務地も千葉、東京あたりまで通勤している。そんな

れば、人口も税収も増えるし、まちの活性化にもつながる。一朝一夕にはいかないが、総合計画についてその方向へ考えていただきたい。それと同時に、商店街の活性化をするためには、都市計画・区画整理等のまちづくりも必要である。将来の匝瑳市が住みよいまちとなるためには、ぜひ区画整理などのまちづくりにも取り組んでいただきたい。

#### (市長回答)

今までのタウンミーティングの中でも、人口増や市の活性化についての構想やご提言をいただいています。タウンミーティングで皆さんの意見をお聞きし、これから立ち上げる新生匝瑳戦略会議の土台にしたいと考えていますが、各地区で「人口減・若い層が少ない」という問題提起をいただき、人口対策は待った無しと感じています。

とにかく、やれることは何でもやろうということで、既に市役所の中にストップ・ザ・人口減少プロジェクトを計画中。内容は、人口減にストップをかけるべく、若手職員でプロジェクトチームを作り、若い人の意見ややり方を出してもらって、行動を起こしていこうとするもので、そのプロジェクトにとりかかる寸前です。

いずれにしても、若い層が住み着いてくれなければ、人口減には歯止めが掛けられないし、そのためには、働く場所・子育ての環境を整えていかなければならないので、やれることはどんどんやっていきたい。

### ③ 市民病院関係

病院問題について。銚子がああいう状態になってしまっている。市民病院の現況はどうなっているのか。また、将来はどうなっていくのか。

#### (市長回答)

市民病院は大変厳しい状況です。県の医療再生計画の中で、地域医療圏としての市民病院の役割は、「2次救急の施設」、「いつでも手術のできる対応」とされています。しかし、現状の市民病院では到底対応しきれない。どこの自治体病院でも医師不足になっているのが実態。市民病院も、一時黒字になっていたが、常勤医師が減り、今は12人という少ない医師数で運営し、医師の確保が困難という状況です。

医師不足では、医業収益があがらない、患者が少ないということで、市の一般会計から病院維持のため毎年5億～5億5千万ぐらい助成しないと、運営を維持できない状態。一般会計からの支出を少しでも抑えられるよう、健全経営に向け

て取り組んでいきたい。

これからの市民病院のあり方について、8月いっぱいを目処にアンケートをや  
っていきたくて考えています。対象は、20歳以上の1000人を無作為に抽出  
してのもので、市民病院に対する考え・思いを伺い、それをたたき台にしながら、  
これからの病院運営を検討していきたい。

#### ④ 子宮頸がんワクチン・住民健診関係

子宮頸がん予防ワクチンについて。国内で補助金を出している自治体も増えて  
きている。全額とはいかないまでも、市で半額ぐらいの補助をしてもらえないか。

市民の住民健診について。40歳未満は受けられなくなってしまった。私は自  
営業で、そういう機会でもなければ健診を受ける機会がないので、希望者だけで  
も40歳未満の住民健診を受けられるようにしてもらいたい。

##### (市長回答)

子宮頸がんワクチンの問題は全国的な問題で、市議会の中で議員さんからも意  
見・要望をいただいているところです。本市の姿勢としては、国・県の動向を捉  
えてやっていきたい。先日の森田知事との懇談会で、各自治体の首長からも県  
の方で早く方向性を出して欲しいと要望がされた。成田市や富里市、いすみ市では  
半額か全額の支給をしているが、大半は国の動向を注視している状況である。高  
額なワクチンということもあって、ネックになるのが予算措置。本市では、年間  
750～800万円位必要になるとの試算である。本市としては、国・県の動向  
を十分踏まえて検討していきたい。

##### (税務課長回答)

住民健診の概要について説明します。住民健診は、平成19年以前は基本健診  
ということで各市町村が実施していたが、平成20年からは社会保険または国民  
健康保険の保険者が実施するというように制度が変更になりました。現在の住民  
健診の対象年齢は40歳からとなっておりますので、40歳未満の方は自己管理  
での対応をお願いしている状況であります。

#### ⑤ 東総地区広域ごみ処理施設建設計画関係

市の重要施策の中で、東総地区広域ごみ処理施設建設計画とあるが、どの程度  
進んでいるのか。

また、現在の環境衛生組合の土地はどうなるのか。

**(市長回答)**

東総地区広域ゴミ処理施設については、東総地区広域市町村圏事務組合を構成する銚子、旭、匝瑳の3市で計画しています。3市のごみ処理施設の老朽化やダイオキシンへの対応等の問題があるため、3市で協力してごみ処理施設をつくっていこうというものです。当初、旭市の遊正地区が有力候補であったが、住民の反対にあって断念。次に匝瑳市の東小笹、山桑の名前も挙がったが、組合の方で調査を行った結果、3市の中で一番適しているのが銚子市の野尻地区だという結果が出て、銚子市で検討し、現在、野尻地区で調整中です。

そういう段階なので、今の1市2町の環境衛生組合も、当分の間修繕を続けながら運営していかなければならない。順調にいても7～10年ぐらいかかる事業で、かなりの時間を要するものであるというのが現状です。

**⑥ 都市計画・JT跡地関係**

日本たばこ産業（JT）の跡地について。市内にある銀行・金融機関をJT跡地へ一箇所にとめられないか。現状の場所では駐車場等利用しづらい。移転した後、中心市街地を活性化するため、ガス・水道・下水道の整備を行えば、個人的試算では2～3千億円の事業ができる。市の金銭的なお世話にならなくても、それだけ整備されていれば固定資産税を払っても惜しくないと思われるのではないか。固定資産税は永遠のもの。固定資産税の値上げをすると反対が起きるが、ちゃんと整備できればそのような支払いも惜しくない。そう言われるような整備計画をしてほしい。地元の建設業界でもできる仕事であるし、市の活性化にもつながる。それがうまくいった後、中心市街地にある工場についても移転してもらえばもっと広い地域で整備が可能になる。

全国での成功事例はいろいろあるが、公共の立場で商売するような他の真似事はやらずに、確実にできることをやっていただきたい。

**(市長回答)**

ご提言の内容については、今後、都市計画のマスタープラン作成や商業活性化の会合の中で、検討していただく材料にしていきたいと思います。

**⑦ 市議会議員関係**

市議会議員は選挙で選ばれるが、能力やしがらみなどの面で十分でない場合がある。地域で道徳的に選ばれた推薦議員のような制度を作れないか。ハードルはたくさんあると思うが、市長の権限でできる事項は結構ある。既存の委員とかではなく、推薦議員というのを市長が指名し、今の議員がやっているものと同じ議

案を審議させることができれば、もっと行政のそばに各地区の人が近づいていくのではないか。今の制度だと国や県に反対されると思うし、実行することは難しいと思うが、いろんな知恵をしばって他の市町村にないような制度を作って欲しい。

#### (副市長回答)

出したい人と出たい人が違うというような「不一致」というのは良くあることで、ご提言の地域推薦というのは理想形であると思います。現行の公職選挙法上では難しいが、他のやり方で可能になる場合もある。今思いついたのは、例えば、市民監視委員会というものを行政が設置し、委員を市民の中から公募で選ぶ。その委員は、議員の権限を侵さない範囲で、行政や議員にもものを申すことができる。そのような制度を市として作るのかどうかということ、新生匠瑳戦略会議で議論していくというやり方もある。行政を身近に感じてもらう一つの方法であると思います。

#### ⑧ 市議会議員関係 (再質問)

私の提言は、法律論議でいくとまずできないという結論になる。私が言いたいのは、選挙で法律的に選ばれた議員は、利害関係があるのでなかなかお願いしにくいですが、地域で推薦した議員ならば、地域の人たちが何かと言いやすいという面があるので、地区の人が気軽に意見や要望を提案できるような制度を作って欲しいということ。

#### (市長回答)

市民本意の行政運営に向かって頑張ります。

#### ⑨ 市の財政関係

広報そうさ平成21年12月号に「一般会計5億の黒字」とある。歳入から歳出を差し引くと、確かに5億ぐらいになる。広報を見る限り、世間で言われているような財政難とは思えない。一方、広報そうさ平成22年7月号には「特別職の給与5年連続カット」となっている。「黒字」であるのに「給与カット」というのは、民間企業ではありえないことではないかと思っているが、その辺の説明をお願いしたい。

**(財政課長回答)**

歳入から歳出を差し引くと、21年度決算では6億円を越える黒字になります。確かに2～3年前に比べると厳しさは和らいでいます。一番厳しい時代は小泉政権の時代で、お金が地方に流れてこなくなり、地方交付税が5年間で10億円減りました。最近は国が経済対策で地方にお金を流してくれているおかげで、かつてほどの苦しさはなくなってきました。民間の場合は、赤字であると経営責任をとって給与カットを行うが、本市の場合は、国のお金が10億円減った厳しい時代（その時は定期的に入ってくるお金でどれだけ出て行くお金がまかなえるかという経常収支比率が99.9%で、臨時的に使えるお金がほとんどなかった。）に行政改革大綱を策定し、職員のみならず特別職も給与カットし、それを今でも続けています。

**(総務課長回答)**

合併時には、経常収支比率が99.9%で財政が非常に硬直した状態で、合併して間もなく、市民の代表の皆さんに委員になって検討していただき、「行政改革大綱」を策定。平成18年から平成22年までの5年間で、改革に取り組んできたところです。全54項目中、現在41項目の実施状況で、達成率は75.9%。金額にして17億円の経費節減につながりました。その提案の中に、特別職の給与カットの項目があり、現在も継続しているものです。

**⑩ 観光大使関係**

観光大使について。銚子では30人以上の観光大使がいるが、匝瑳市は1人である。観光大使はすでに一般化されているので、地元を活性化・PRしてもらうのに200人以上委嘱してもいいのではないかと。そして地井さんには（観光大使より格上の）ふるさと大使になってもらえば良い。

**(市長回答)**

市外で頑張っている人に、地元を活性化・PRしていただくのは大変いいことです。匝瑳市と銚子市のやり方は違うかもしれないが、勉強させていただきます。